

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について(送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和4年度病害虫発生予報第8号(11月)
令和4年度病害虫発生予察注意報第6号

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和4年度病害虫発生予報第8号(11月)

令和4年11月1日
愛知県

果樹

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	—

・留意事項

カキ炭疽病について、10月下旬に実施した巡回調査では主に「富有」で発生量が多かった状況でした。本病原菌は、枝の病斑の中で越冬しますので、発病枝の切除を徹底しましょう。

ナシ黒星病は、落葉中で病原菌が越冬し、次作の伝染源となります。発生が多かったほ場では、落葉を園外に持ち出す、粉碎、すき込むなど適切に処分しましょう。また、本病原菌は枝上の芽りん片でも越冬します。せん定時期に入ったら早めにせん定を行い、菌が活動を始める前までに終わらせましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	—
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
	菌核病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の降水量はほぼ平年並	± ±
ハクサイ キャベツ	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はハクサイ ほ場で平年並、キャベツほ場 でやや少ない フェロモントラップにおける 誘殺数は平年並 11月の気温はほぼ平年並	—～± ± ±
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	黄化葉巻病	多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い 10月下旬のコナジラミ類の発生量は多い	+ +
	コナジラミ類	多い	県全域	10月下旬の発生量は多い 11月の気温はほぼ平年並	+ ±
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温はほぼ平年並	— ±
キュウリ (施設)	うどんこ病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない	—
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間はほぼ平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の気温はほぼ平年並	± ±
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ハダニ類	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の気温はほぼ平年並	— ±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±
	オオタバコガ	平年並	県全域	キャベツほ場における10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並	± ±

・防除対策

[トマト（施設）・黄化葉巻病、コナジラミ類]

本日発表の「令和4年度病害虫発生予察注意報第6号」を参考にしてください。

・留意事項

虫媒伝染性ウイルス病のトマト黄化葉巻病（TYLCV）やトマト黄化病（TOCV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）が発生しているほ場では、発病株を抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫（トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ、トマト黄化病はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病はミナミキイロアザミウマ）の防除を徹底しましょう。

イチゴ炭疽病の発生量が多い状況です。発病を確認したら発病株や隣接する株は速やかに抜き取り、ほ場外で適切に処分しましょう。育苗ほ場で発生があったほ場は、特に注意しましょう。イチゴのハダニ類は多発すると防除が難しくなるので、発生を確認したら、速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

作物

・留意事項

10月下旬のダイズほ場での巡回調査における吸実性カメムシ類の発生量は平年並です。しかし、弥富市及び豊田市において、発生が多いほ場が確認されました。子実肥大中期以降の被害は奇形粒、変色粒を引き起こすため、収量、品質の低下につながります。また、成虫はほ場外に好適な食草があれば、子実肥大中期以降にほ場外へ移動しますが、幼虫は移動せず、黄熟期まで加害を続けます。吸実性カメムシ類の発生が多いほ場では、収穫前日数に注意し、防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台 10月27日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに30%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率40%です。3～4週目は、平年並または高い確率ともに30%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：40% 平年並：30% 高い：30%

〔降水量〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。